

Let's note



手づくり



レッツノート工房

帰ってきた夏の風物詩「手づくりレッツノート工房」を開催！

2025年8月1日(土)、パナソニック コネクト株式会社 神戸工場にて、第22回「手づくりレッツノート工房」を開催しました。毎年夏休みに実施している恒例イベントですが、今回は実に2年ぶりの開催となりました。今年も多数のご応募の中から抽選で選ばれた36組の小・中・高校生とそのご家族が、東は埼玉、西は佐賀からご参加くださいました。



最新モデルのレッツノート「SC」が作れる！

さて、記念すべき22回目となる今回は、「頑丈×軽量×長時間」を新構造でさらに進化させた12.4型の最新モデル「SC」の組み立てに挑戦していただきました。そのほか、工場やショールームの見学、モノづくり体験イベントなど、お楽しみメニューも盛りだくさん。レッツノートとともに、夏の思い出をご自宅までお持ち帰りいただきました。



パソコン組立教室①



いざ、組立会場へ

組み立て会場は、工場の一角。普段は、パソコンを生産している場所です。この日は一日限定の特設会場として、36人分の作業台を準備。安心・安全で楽しくイベントに参加できるようにと、子どもたちに会えるのを楽しみに準備してきたスタッフたちが、少し緊張気味の子どもたちを出迎えます。



36人分の
作業台がずらり

担当の先生と、名刺交換を体験

レッツノートを組み立てる作業台では、子ども2人に対して、先生が1人ついてサポートします。まずは最初に、担当の先生と名刺交換でご挨拶と自己紹介をしました。この名刺交換は「人とのつながりを作る」という意味合いがあります。

レッツノートの
名刺ケースを
プレゼント



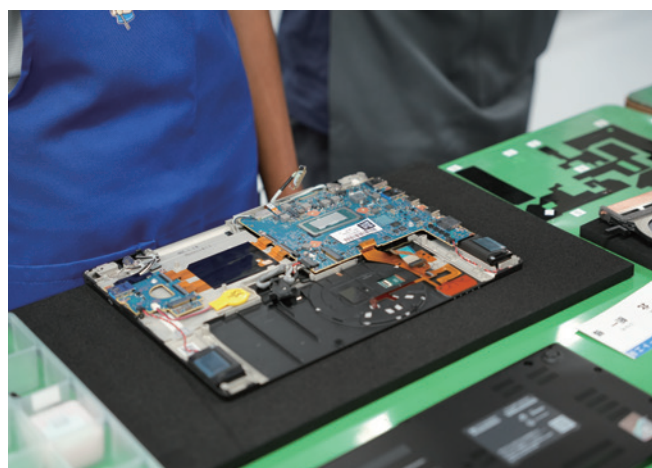
エプロンとアースバンドを装着

チームカラーごとのエプロンと、静電気防止のアースバンドをつけたら準備完了。



工具や部品を確認

組み立て作業は、参加者一人ひとりの名前が入った組立図と、前方のスクリーンに映し出される先生のお手本をもとに進めます。工具や部品もわかりやすく分類されているので初心者でも大丈夫。「ゆっくりやっていこうね」と声をかける先生に、子どもたちは笑顔でうなずいていました。



パソコン組立教室②



細やかな作業にドキドキ・・・

冷却ファンの取り付けから始まった工程は、これまでの機種にはない小さな2.5mmねじを締める作業や、たくさんある細いケーブルの配線、小さなコネクターの接続と、とても細かな作業が続きます。要所で先生からアドバイスを受けながら、ほぼすべての作業を自らの手でおこなっていきます。



先生といっしょに
頑張らしましょう

「ケーブルがうまく通せない」「コネクターがうまく入らない」。子どもたちのSOSに先生がいていねいに手助けサポート。

集中して組み立て中

スタートから1時間余りがたつと、組み立ても大詰め。集中力が必要な作業が続き、子どもたちの表情は真剣そのものです。最初はドライバーで小さなねじを締める作業も難しいそうでしたが、ドライバーの扱いにも随分と慣れた様子です。



組み立て手順を確認しながら、慎重に作業中



最後の工程は、バッテリーの取り付け。完成まであと少し！



電源がついて拍手！

最後に、みんなで一齐に電源を入れてみます。一瞬間を置いて、会場からは「ついたよ!」「ヤッター!」と歓声と拍手がわき起こりました。画面に表示されたのは、「Panasonic」の文字。がんばって組み立てた全員のレッツノートが無事起動した瞬間でした。

検査も全員
見事にクリア



イベント体験



記念撮影



ねじ締め体験



レジンキーホルダーづくり



タフブック搭載パトカーの乗車



ショールーム

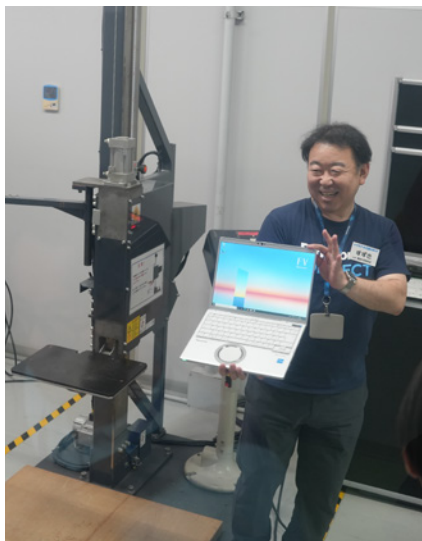


生産性を競うミニゲーム

工場見学



高速で部品を装着する様子に釘付け



落下試験の高さにびっくり!



放水銃でタフブックを狙い撃ち

参加者の声



石川県 中学1年生

石川県中学1年生のAさんは「パソコンの中身を初めて見る事ができて、新しい発見、わくわくの連続でした。複雑なのに部品がとても精密に配置されていてすごいと思いました。セキュリティシールの貼り付けに手間取ったけど、楽しみながら作ることができました」と、とても充実した様子。自らの手で作ったレッツノートは、なんとおじいちゃんへのプレゼントにするのだそうです！その組み立ての様子を見ていたお父さまは「これまで思い込みでものごとを進めることが多かったのですが、今回先生の話聞いて順序よく組み立てていました。やり直しがきかない作業を慎重に進めていて、いつの間にか成長したんだなと実感しました」としみじみとお話してくださいました。

兵庫県 小学5年生

兵庫県から参加した小学校5年生のBさんも、「お母さんに使ってもらうことを考えながら作りました」とのこと。ご両親も「小学生には難易度が高いかと思いましたが、意外とスムーズに組み立てていて驚きました」というほどの手際の良さで、「特にセキュリティシールをきれいに貼れたことがすごく嬉しかった。ネジを締める作業は難しかったけど、最後まで組み立てることができました」と満面の笑顔をを見せてくれました。



埼玉県 小学6年生

「SNSでデスクトップパソコンを組み立てる動画は見たことがありましたが、ノートパソコンは見たことがなかったので良かった」と話してくれたのは、埼玉県から参加した小学6年生のCさんです。「端子を差し込むときにとても難しかったけれど先生が丁寧に教えてくれたので作ることができました。自分でパソコンを作ることができ、とても達成感がありました」と、初めてのモノづくりに手ごたえを感じたようです。お父さまとしては「横で見ていると歯がゆいところもあった」そうですが、やはり「一生懸命に作っている姿を見られてよかった」と目を細めておられました！



スタッフの想い



組み立て教室のリーダー

組み立てたパソコンの電源が入ったときお客様の笑顔が、とてもうれしかったです。2年ぶりの開催で久しぶりにこのうれしさを感じることができて本当によかったです。組み立て教室を担当するにあたって、「リアルな組み立て感」の提供に苦心しました。組み立てを簡単にすると体験が薄れますし、難しくすると完成品の品質に不安が残ってしまいます。例えばセキュリティラベルを貼るという作業は貼り直しが難しい作業になりますが、今年新しく作業に加えしました。お客様から「やり直しが難しい作業がリアルだった」との声をいただき、やってよかったなと感じられました。これからも自身の業務を通じてお客様の笑顔を守っていききたいと思います。

受け入れ係のリーダー

お客様が楽しそうにパソコンを組み立てる笑顔を見て、「このイベントをやってよかった」と心から感じています。普段は工場で作業しており、お客様と直接接する機会がない中、今回のイベントでリアルなお客様の声や反応を知ることができ、モノづくりの解像度が大幅に向上しました。運営では2年前の経験を活かし、安全第一を心がけて万全の体制で臨みました。コミュニケーションに苦手意識がありましたが、あえてチャレンジすることで人として成長でき、仕事のモチベーションも大きく向上。多くの方に助けられながら交流の輪が広がり、知識も増えました。参加者にレッツノートを好きになってもらえたら嬉しいです。



イベント運営のリーダー

普段なかなかお客様と接する機会が少ないのですが、レッツノート工房では直接お客様とお話できてとても貴重な機会でした。モノづくりの体験を通してお客様に感動してもらっただけでなく、お客様と社員と一緒にイベントを作り上げることで感動を分かち合えたと感じています。運営にあたっては、組み立てを体験するお子さんだけでなく、ご家族の方含めて全員に喜んでいただけることを考えました。イベントが終わった後も夏休みのいい思い出になったなと感じていただけたならうれしいです。レッツノート工房を通して、本気でお客様と向き合うことが大切であるということを改めて感じることができました。



工房長と工場長からのメッセージ



遠藤工場長

神戸工場の伝統行事、ひいては地域の夏の風物詩となっているレッツノート工房ですが、「子どもたちには純粋に楽しくモノづくりを体験してもらい、『モノづくりって、すごいな!』と感動してもらいたいです」と今年の開催を決めた遠藤さんは、「レッツノートを生産している工場で開催することに大きな意味があります。単なる組み立て体験というだけでなく、リアルな『モノづくり』に触れられるのは自社工場ならではのすから」と、この特別なイベントに込めた想いを語ってくださいました。

橋本工房長

そして、今回工房長を務めた橋本さんからは「別の視点では、神戸工場の一体感、普段関わることのない社員同士でのチームワークが醸成できた」という、運営サイドでの嬉しい効果についてコメントも。「どうしたらお客様は感動して下さるだろう、という一つの目標に向けて全員で知恵を出し合い、実際に開催できたことは大きな自信につながった」と胸を張ってお話してくださいました。



神戸工場から伝えるモノづくり

「お客様視点に立ってイベントを考え当日参加者の皆さんと直接接することで、モノづくりの先にいらっしゃる『お客様』を感じられたことは、お客様と直接触れ合う機会がとても限られている工場メンバーにとって、本当に貴重な体験」だったそうで、最後に「これからも、神戸工場から日本のモノづくりの魅力を伝えていきたい」と語ったお二人の表情は、モノづくりのプロとしての誇りに満ちあふれていました。

